http://hakodate-east.bfweb.jp/

ロータリーは機会の扉を開く
ホルガー・クナーク
国際ロータリー2020-21年度会長

第2510地区 第11グループ
函館東ロータリークラブ

会報 2020~2021

●例会場／ホテル函館ロイヤル TEL(0138)26-8181(代)
●例会日／毎週火曜日　12：30～13：30
●事務所／ニチロビル4F TEL(0138)23-3870 FAX(0138)22-2251
●会長／佐藤真一　●副会長／吉川達也
●幹事／新保栄子
●友好クラブ／長崎東ロータリークラブ

第3052回　4月27日(火)

本日のプログラム
「 観 桜 例 会 」12：30～
於：伏白稲荷神社　弓弦葉

次週のプログラム 4月27日(火)
「 フラワーアレンジメント例会 」
㈲雄喜フラワーデザインスタジオ
代表取締役　佐藤　雄喜 会員

結束　今できる奉仕と友情の輪を広げよう
2020～2021年度 会長　佐 藤 真 一

第3051回例会　2021年4月20日(火) 天候　晴　　月間テーマ　母子の健康月間

■ロータリーソング　それでこそロータリー
■司　会　吉川　達也　副会長
■ゲスト　国際交流センター
事務局長　池田　誠　氏

■会長報告

1、佐々木会員
転勤の為退会

■幹事報告
1、当クラブ次週27日の例会は移動例会に変更。また、5月4日は祝日休会です。
2、他クラブ例会変更：30日㈮函館五稜郭ＲＣ、5月6日㈭函館ＲＣは共に自主休会。

「函館から全国に広がった草の根国際交流　その40年」

国際交流センター 事務局長　池田　誠 氏

HIF40周年を経て、そしてこれから歩むべき道

1979年夏、アメリカから来た16名の留学生は七飯町の農家に2週間ホームステイをした。日本語もあまりわからない、日本食も食べたことがない、寝るのに畳は初めてだ。そんなてんやわんやな状態で、留学生を受け入れた日本の家族たち。それでも、お別れの時になると泣き出す子どもたちや、家族と抱き合う光景があちこちに。

国に頼った国際交流ではなく、民力による多様な文化を取り込んだ無形の学園の促進、そして、民力による魅力ある豊かな多様な社会の実現だ。

これまで、留学生のホームステイ、日本語教育、国際協力、インバウンド対応などの国際活動から、環境保全、自立支援、子ども食堂、まちづくりなどを行ってきた40年間。一言でいうなら、違いの受入であり、組み合わせであり、合意形成だったのだと言えるのではないだろうか。そんな中で、これからの歩むべき道がいくつか考えられるものがある。

ひとつは、今までの経験を活かした「マッチング」だ。留学生とホストファミリーだけではなく、若者の就労だったり、子ども食堂だったり、必要なところに必要なことを届けるマッチングだ。

2つ目が、「共に支え合う社会づくり」の実現だ。外国人だけではなく、障がい者、あるいはマイノリティと言われる立場の人たちも含めて共生する社会づくり。そして、3つ目が、新規課題へのアプローチだ。

HIFの歴史は、ホームステイによって、地域に無形の学園を形成するとスローガンを掲げたように、チャレンジなくして今の形はあり得なかった。淀まず流れ続ける清流のように、新規課題に向き合ってゆくこと。そのひとつが、今年から始まる「亀尾ふれあいの里」農園の運営管理だ。

40年は、世代を越える年月でもあり、人の歴史の中ではそれなりに長い期間だ。しかし、組織にとってみればまだまだやれることを残している。次の世代のために残したいもの、そして伝えてゆきたいもの。いろいろなものを、育ててゆくことこそ、これからの大きなテーマになるに違いないと心に刻みたい。

［インバウンド事業］

国際観光都市函館で、国際交流の視点から、観光に関わる事業を行います。2014年からダイヤモンド・プリンセスをはじめとした外国クルーズのインフォメーションデスクを開設し、多言語対応をしています。また、国内外の観光客に対応する観光ボランティア育成セミナーの実施や、観光客の動向調査なども行っています。観光業者に翻訳サービスを提供したり、イスラム圏観光客などに対して「ハラルマップ」を作成するなど、インバウンド促進のための活動を行っています。

［外国人研修事業］

ホームステイ事業で得た地域のネットワークや情報をフル活用し、様々な外国人研修生のプログラムを運営しています。1990年代にタイ政府からの技術職員、ロシア東欧貿易の水産研修者を受け入れたほか、2001年からは内閣府の青少年交流事業、JICAの地方行政・農業・社会福祉・幼児教育など幅広い分野の研修、21世紀東アジア青少年大交流(JENESYS)、(一財)共立国際交流奨学財団との連携事業など、様々なプログラムを実施しています。

［生活困窮者自立支援事業］

2015年の生活困窮者自立支援法施行による生活や就労のサポート事業で、「生活就労サポートセンター」として、渡島、檜山管内で自立支援を行っています。それぞれの管内で相談窓口を設けると同時に、定期的に町村での相談や関係機関と連携し、アウトリーチも行っています。また、生活困窮世帯等の子どもの学習・生活支援も行い、訪問支援、拠点型支援、通信教育支援、および保護者に対する相談など、個別の状況に合わせてサポートしています。

［フリースペース『ヨリドコロ』］

2015年度より、若者(18～39歳)が自由に過ごせる空間、「居場所づくり」のために、フリースペース「ヨリドコロ」を開設しました。さまざまな悩みを抱える若者たちの自殺防止などを目的に、「ウチにこもり、出口のない状態」になることを防ごうと、「居場所」の提供をしています。中間的就労や、障がいを持った人たちと共に働くソーシャルファームも含めて、あらゆる形で自立に向かえるよう、支援しています。

［にこにこ子ども食堂］

未就学児や児童のうちから社会とのつながりをつくることで、健全な青少年育成につなげるための事業です。毎週金曜日、子どもたちに無償で食事を提供する「子ども食堂」をオープンしています。温かい手づくりの料理をみんなで食べる場は、子どもや保護者の新たな「居場所づくり」にもなります。食材の提供や調理などの多くのボランティアの協力のもと、地域全体で子どもたちを育てようという意識を浸透させていきたいと考えます。また、子ども食堂に関わるシンポジウムも行い、北海道全体の子ども食堂ネットワーク形成を目指しています。

［海外サポート事業］

留学、海外ボランティアなどに対して、渡航に関する情報提供や相談業務を行っています。2013年には、セミナーや相談業務を行う「グローバルキャリアサポート函館」を開設、ワークキャンプの拠点として「北海道ワークキャンプセンター」も開設し、国内外からの参加者をサポートしています。また、日本の小学生が外国人留学生と触れ合う「ニセコ留学」も開催。国際交流やアウトドア体験をすることで、海外に関心を持つ次世代を育成しています。

人材育成
自立支援

『はこだて若者サポートステーション』のスタートを契機に、
国際交流で培った経験を活かして若者の就労支援に取り組んでいます。
加えて、生活困窮者の自立相談や学習支援、子ども食堂、
海外で学んだり働きたい人への情報提供を行う「グローバルキャリアサポート函館」など、
活動は大きな広がりを見せています。

情報発信

社会のさまざまな問題を改善していくためには、
地域としてどう捉え、どう向き合えばよいか――。
それがHIFが発行している情報誌『ゆh(アット・エイチ)』の編集テーマです。
ほかに、函館市青少年研修センターの運営や大沼の環境保全活動、SDGs推進事業等、
地域社会とのネットワークの構築、情報発信等を進めています。

［若者就労サポート事業］

国際交流事業を行う中で、留学生とホストファミリーとの異文化交流をサポートし、また数多くのホームステイをマッチングしてきた経験を活かしてスタートしたのが「地域若者サポートステーション」事業です。これは15歳から39歳までの若者に、自己肯定感を高め、「視野を広げることで、新しいチャンスを見つけ、就労へつなげよう」と、キャリアコンサルタントを中心に支援を行いました。

［函館市青少年研修センター（ふるる函館）運営事業］

2015年度より、ワーカーズコープ両の共同事業により「ふるる函館」の運営をしています。小学校などの研修旅行はもちろん、大学や企業の研修の場としても活用されています。これをきっかけに、多世代交流を行うワーカーズコープ両と国際交流を中心に行うHIFとのコラボ事業も生まれ、多言語講座や、児童との交流、次世代育成セミナーなどが行われています。

［『キッチン八幡坂』運営事業］

『キッチン八幡坂』は、ロシア極東連邦総合大学函館校の学生食堂運営事業として2014年度からスタートしました。学生はもちろん、一般の方も利用できます。JDプログラムの2か月間は、外国人学生たちも多く利用するため、国際色豊かな交流の場となっています。「ボルシチ定食」をはじめ、さまざまな工夫を凝らしたメニューも魅力です。

40th

40年の年月に込められた思いを再度認識し、新しい　時代の流れも受け入れていく。――HIF専務理事・池田 誠

■ニコニコボックス

新保幹事　国際交流センター事務局長池田様、本日はよろしくお願い致します。

松井会員、外崎会員　桜が咲きました。

■広告料

㈲ビイエフネット　番場優会員

■出席報告

・４月20日（火）　会員37名中　出席27名

労働行政事務代行 原事務所
原　隆俊　会員
中島町17−1　電話 53−5555

藤 商 事 ㈱
長谷川　浩之 会員
北斗市七重浜7−13−4　電話49−4031